

スッキリとした塀、見晴らしが良いですね。  
“木”は輪番住宅へ引っ越しました。

真宗大谷派（東本願寺）大谷暢顯門首御親修  
旭川別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要  
記念事業本堂等改修工事完成奉告式  
期日 2014（平成26）年6月19日～22日

改

この度の旭川別院本堂等  
修工事にあたり、記帳書提出していただき感謝申し上げます。  
いまだ記帳書の提出が滞っております方々には是非ともお願い申し上げます。

○月○日



調査員：草部・垣原・横井よ・長尾・高橋  
2012年10月2日作成

# 別院しらべ隊

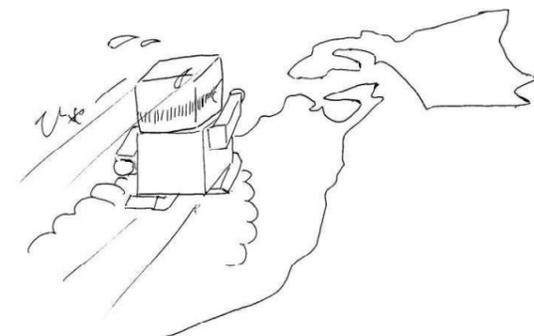
調査報告書No.25 びふおー あふたー

## 江戸末期～明治初期④

明治3年(1870年)5月25日

羽前国尾花沢念通寺を出発する現如上人一行の前に、秋田藩の使者2名が書面をもって来た。書面の内容は、領内は一日十里の旅程で通行すること、途中出迎えや宿所参集等は一切禁止、取締りのため藩庁から兵隊を差し出す等々が記載されていた。

この頃は勤王佐幕の余焰が十分に解消せず、多額の戦費を費やしており、凶作にもあっていた。北海道開拓の寄付募集をすることは地方財政を一層枯渇させることになり、北海道移住者が続出した場合、領内の労働力を削減することとなる。秋田藩においては、経済問題に併せて廃仏思想が絡み合っていたため、一行に加えた妨害は、場合によっては生命・身体に危害を加えようとする不法無道の妨害であった。



6月4日	尾花沢、新庄、鶴岡、酒田を経て、羽後国象潟到着。
6月5日	本荘に向かう途中、西目村アマハギ郊外の砂浜にて騎馬武者数騎に囲まれた。宰制下間法眼頼一は騎馬武者の無礼な態度に立腹し、帯刀していた刀の柄に手を伸ばそうとした時、御輿の中から現如上人が「待て待て」と押し止め、惨事を防いだ。武者は別道を選ぶよう申し残し、その場を去った。その夜無事に本荘善応寺に着き、宿泊。
6月6日	超光寺泊

before



after



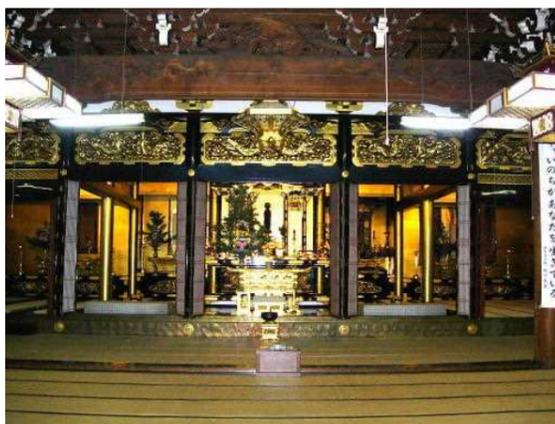
見晴らしが良くなって、しかも、鮮やかに生まれ変わりました。

あっ！ しまった、白黒だ…



赤色のトタン屋根から銅板葺きの屋根へ、渋みがあるね～

この違い、わかるかな～？



何もない、寂しいお堂になりました。  
只今、内陣工事(漆・金箔)の真っ最中。

漆かぶれにご注意下さい。

before



after



問題・・・どこが変わったでしょうか。

答え・・・全体です。



階段の幅が2倍、2倍ですよ!!  
しかも傾斜が緩やかになったんです!!



写真だけでは解りづらい... 申し訳ありません。  
でも、確かに綺麗になっているんです!!  
あなたのその目でご確認お願いします。